

「民間教育事業者との連携による新しい時代に求められる 教員の資質能力の向上」

調査の概要

◆課題認識

- ・将来の予測が困難な時代において、子供たちには新たな価値を創造していく力が求められている。
- ・教員が新学習指導要領で示されたプログラミング教育を始めとする「新しい学び」を、児童生徒に指導するための資質能力の育成が課題である。

◆調査研究の目的

- ・プログラミング教育実施のために必要な教員の資質能力の育成を図る。
- ・民間教育事業者と連携して、実践的な研修プログラムや教材等の開発に取り組む。

◆調査研究の方法

- 民間教育事業者を活用したプログラミング教育の研究
 - ・教員研修会及びプログラミング教育授業の実施
 - ・研修プログラム及び教材開発の共同研究
 - ・プログラミング教育カリキュラムの作成
 - ・評価ツール作成の共同研究

◆調査研究校

- ・埼玉県戸田市
- ・市内全小・中学校

◆本市の概要

- ・市内学校数：小学校12校、中学校6校
- ・児童生徒数 小学校約8003名
中学校約3299名

(平成29年5月現在)

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①市教委主催教員研修会の実施
 - ・全小中学校から悉皆参加でプログラミング教育研修を実施
 - ・民間教育事業者を講師に招聘
- ②全市プログラミング教育推進体制の整備
 - ・市研究推進委員会を発足させ、市内全小・中学校でプログラミング教育を推進
- ③市内小・中学校での推進
 - ・市教委アドバイザー、民間教育事業者を活用した校内研修及び授業支援を実施

◆成果

- ・小中一貫した9年間のプログラミング教育カリキュラムを作成（H30年度から全小学校全学年でプログラミング教育を実施）
- ・市内全小・中学校でプログラミング教育の校内研修を実施
- ・市内全小学校でプログラミング的思考を育む授業を実施
- ・民間教育事業者との共同研究で独自のプログラミング教材及び評価ツールを開発
- ・民間教育事業者の知のりソースを活用した最先端のプログラミング教育研修を実施



今後の課題

◆小中一貫した系統的なプログラミング教育の充実

- ・プログラミング的思考を育むカリキュラム及び教材開発等の研究を継続
- ・小学校からの系統性を踏まえた中学校でのプログラミング教育の在り方を研究